

プレスリリース
2017年6月19日

報道関係者 各位

バイオテック情報普及会

バイオテック情報普及会 高校生科学教育大賞
受賞校決定のお知らせ

— 最優秀校に山形県立米沢興譲館高等学校 —

バイオテック情報普及会は、持続可能な農業の実現や食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性をご理解いただくため、様々な活動を行っております。その一環として、これからを担う高校生及び高等専門学校の皆様に「持続可能な農業」や「植物バイオテクノロジー」についてより深く学び考えるきっかけとしてもらうことを目的とした教育支援活動を2015年より展開してきました。本年はより多くの高校に当会の支援活動を広げるべく、「科学教育支援」の対象校を公募し、採択校にはその活動費用を最大100万円支援することと致しました。

2017年2月21日～4月28日までの応募期間に全国各地の高校から合計28件の応募を頂き、小泉 望氏(大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授)、小島 正美氏(毎日新聞 東京本社生活報道部 編集委員)、高島 賢氏(農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課 審査官)の3名の外部委員およびバイオテック情報普及会から成る選考委員会において、各校より提出された申請書類に基づき厳正な審査を重ねた結果、下記の高校を支援先として採択することを決定いたしました。また、選考過程におきまして、本支援を『高校生科学教育大賞』と改め、採択校を最優秀賞、優秀賞、審査委員賞、奨励賞として表彰することといたしましたので、併せてお知らせいたします。

最優秀校には、山形県立米沢興譲館高等学校の「米沢興譲館バイオテック・ネットワーク ～小中高大をつなぐバイオテクノロジー教育の架け橋となる取組～」が選ばれ、100万円が支援されます。小中高大と多様な世代において、様々なバイオテクノロジーの技術を理解する9つの講座の開催及びイベントへの参加が計画されており、選考委員より高い評価を受けました。高校生が地域の小中学生に教える、いわゆるアクティブラーニング的なイベントもあり、主体的・対話的でより深い学びが得られ、今後のバイオテクノロジーにおけるサイエンスコミュニケーションのモデルとなることも期待されるとのコメントが選考委員より出されました。

■最優秀賞の山形県立米沢興譲館高等学校を表彰する授賞式

6月29日(木)午後1時30分より、山形県立米沢興譲館高等学校の校長室(山形県米沢市大字笹野1101番地)で最優秀賞の授賞式を行います。メディア各社様の取材も可能ですので、ご希望の場合はバイオテック情報普及会 事務局までご連絡ください。

本件に関する問い合わせ先:
バイオテック情報普及会 事務局
電話:03-3525-4805
Email:secretariat@cbijapan.com

【バイオテック情報普及会 高校生科学教育大賞 受賞校一覧】

■最優秀賞

学校名:	山形県立米沢興譲館高等学校
活動名:	米沢興譲館バイオテック・ネットワーク ～小中高大をつなぐバイオテクノロジー教育の懸け橋となる取り組み
選考理由:	幅広い科学知識の習得とその伝達を高校生自身が主体的に実施するという、アクティブラーニング的な視点が最も評価された。また、一般の人々にバイオテクノロジーに関する情報を伝えるサイエンスコミュニケーションのモデルにも成り得る。

■優秀賞

学校名:	大分県立大分東高等学校
活動名:	大分県産イチゴ「ゆふおとめ」メリクロン苗の生産ならびに普及活動について
選考理由:	地域産業の将来の担い手が、地元自治体と連携しながらバイオテクノロジーを利用して地域の農業振興を図る計画が評価された。小中学生のバイオテクノロジーの理解促進への貢献も期待される。
学校名:	奈良県立磯城野高等学校
活動名:	バイオテクノロジーを使ったアジマイモの持続可能な苗づくり
選考理由:	地域の伝統作物をバイオテクノロジーを用いて復活、栽培、ブランド化することを視野に入れている着眼点が評価された。地域農業への貢献が期待される。
学校名:	東京都立園芸高等学校
活動名:	絶滅が危惧される自生地サギソウの実生育成法の開発および自生地ごとのサギソウ遺伝子解析による系統保存
選考理由:	系統解析等のバイオテクノロジーに対する理解の深化とともに、絶滅が危惧される地域固有の遺伝資源の保護につながる点が評価された。
学校名:	千葉県立薬園台高等学校
活動名:	江戸時代滝台野の薬園にリンドウは栽培されていたのか ～リンドウ属の野生種と園芸種の違いを遺伝子配列から読み取る～
選考理由:	遺伝子解析等のバイオテクノロジーを利用して野生種と園芸種の多様化に対する理解を深めながら、地域の伝統植物の保全につながる点が評価された。

■審査委員賞

学校名:	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校
活動名:	YSFH science experience program～持続可能な農業に向けて塩害を知ろう～
選考理由:	子供たちの科学的理解を促進しようとする高校生の積極的取り組み。身近なことを題材としたサイエンスコミュニケーションが期待される。

■奨励賞

学校名:	新潟県立新発田高等学校
活動名:	新潟県の特産品イネを用いた課題研究の実施～持続可能な社会構築に寄与する未来の国際的科学技术リーダー育成～
学校名:	新潟明訓高等学校
活動名:	高校生が自らの手で行う次世代シーケンサーを用いた植物ゲノムの分析～絶滅危惧水生植物アサザの遺伝的多様性の推定と新規遺伝マーカーの確立を目指して～
学校名:	東京都立桜修館中等教育学校
活動名:	温度応答性ゲルを用いた砂漠の保水性向上と農業への応用
学校名:	聖学院中学校高等学校
活動名:	聖学院みつばちプロジェクト
学校名:	熊本県立鹿本農業高等学校
活動名:	くまもとの地域資源活用プロジェクト

※優秀賞及び審査委員賞の学校へは申請額の全額又は一部を支援、奨励賞へは図書カード 5000 円を進呈。

詳細は右のウェブサイトをご覧ください。<https://www.cbijapan.com/cbij/education>

以上

※バイオテック情報普及会(英名:Council for Biotechnology Information Japan、CBI Japan)は、植物科学やバイオテック作物の開発企業で構成する国際組織「クロープライフ・インターナショナル(本部ブリュッセル)」傘下の任意団体で、2001年10月1日に設立されました。

<http://www.cbijapan.com/>

本会は持続可能な農業の実現や食料の安定供給への貢献を念頭に、サイエンスベースで透明性ある許認可システムの構築を支援するための活動や幅広いステークホルダーの皆様へバイオテクノロジーの重要性をご理解いただくための広報活動を行っています。

■バイオテック情報普及会 会員会社

シンジェンタジャパン株式会社、ダウ・ケミカル日本株式会社、デュポン・プロダクション・アグリサイエンス株式会社、日本モンサント株式会社、バイエル クロップサイエンス株式会社、BASF ジャパン株式会社

■バイオテック情報普及会 賛助会員

アメリカ穀物協会、ジェネクティブ・ジャパン株式会社
(それぞれ 50 音順)